

切田 多仲殿  
下河原 志津馬殿

(十八) 當山沿革一班書上

御尋に付捧書

京都寺町二條下ル妙滿寺末

上行山法華寺草創天正年中開基日慶と申候

什物古筆

宗祖日蓮御眞筆小曼陀羅

文之切レ十字餘之小幅

一幅

二代 日 進

三代 日 照

四代 日 養

四代目に寺再興任 京都 勅願所妙滿寺を以て爲本寺其以前は小庵同然にて本寺無御座候

五代 日 生

法華寺元來の寺地光臺寺の西隣に御座候所

源秀院殿御廟所御用地に付當所へ替地被仰付引地仕候

日 生 義

重信様御部屋住より御懇意被懸御日被下連歌御相手度々出席仕拙寺へも被爲成候由依之引地後本堂建立之節栗柱三十本被下置竝に諸材木從御上御心添被成下候由申傳候

六代 日 普

此代に

重信様御姫御俗名 於喜志様

外記様御姉御同腹 拙寺へ奉葬送候

御牌名

貞了院殿妙恕大童女

延寶九<sup>西</sup>年六月十三日

七	代	日	秀
八	代	日	衷
九	代	日	湍
十	代	日	隣
十一	代	日	瑠

此度享保十五年戌十一月京都本寺より色衣致免許ひ仔細は於遠國門中法義不懈其上 於大所 御城下  
 觸頭役相蒙勤候由右之兩功を以て色衣等に罷成候此段御訴申上色衣成 御目見得申上候其節戌十一月  
 二十八日被仰出候趣從本寺寺格相改候故因 思召に御目見得座上げ被遣候と被仰渡候 時之寺社御奉  
 行伊東彈右衛門、久慈勘兵衛翌年享保十六亥年年始御禮申上候より二人立之座へ進申上候

十二	代	日	芳
十三	代	日	富
十四	代	日	廣
十五	代	日	元
十六	代	日	明
十七	代	日	甫

貞了院様御靈前へ鶴御紋御提燈同御紋高張壹對先年御奉納御座候に付百五十回御忌御相當之砌相用可

三、歴代書簡ほか古文獻

申候所損し候に付右之段申上拙寺物入を以て拵直仕候

右者 看守 義俊代

十八代 日 誠

日誠志願仕候者爲冥加之何れ永く相残り候志相建申度心懸罷在候處此度御場所不計小高御殺生場へ自分物入を以て供養碑相建申度旨天保六年九月願上候處同十二月二十四日願之通被仰付右碑相建候場所者翌正月二十二日被下置同年四月碑相建供養仕候

十九代 現在 日 顛

寺内塔頭

蓮華院

妙法院

末庵 那須川

以信院

貞享年中草創八日町新左衛門先祖隱居得入庵に御座候

開庵 得入

二代 通雅

三代 盡敬

四代 順貞

當時 無住

末庵 八幡町

本妙院

元之庵地餌指小路に御座候貞享年中八幡へ引地仕候

開庵 了恕

二	代	了	善
三	代	元	隨
四	代	善	聽
五	代	純	應
當	時	無	住

信應様御代寶永七年より右兩庵御目見得申上來候

末庵 閉伊郡大川村高野太兵衛知行所

妙法院

當院元來法華寺隱居所御座候寶永五年より庵住差置候

庵 住 一 心

此後道心者 看 主

二 代 開 道

當 時 無 住

法要等は本寺にて相勤罷在候 右者御目見得不申上候

右之通寺内末庵相違無御座候 御目見得申上候寺院支配下には無御座候

支配 下

北郡田名部 法華寺支配下

京都本能寺末 一 乘 山 善 宗 寺

善宗寺事往古小庵に而何方之末寺支配と申義無御座候其節於田名部一宗少々有之其中泉州堺より新相久左衛門と申者下り徘徊仕候此者法華宗にて宗門志深く何卒右小庵寺に取立申度願望に付京都へ罷登り檀那寺之本寺京都寺町姉小路本能寺へ願候而成就院日意と申僧下し於田名部右善宗寺と申寺に仕候則補任曼陀羅に一乘山善宗寺と御座候 本能寺歴代日有上人之筆也 依之善宗寺開闢之檀那新相久左

衛門法名宗和と申候久左衛門家跡相續仕善宗寺向萬事致世話候 開基之僧は成就院日意干時元和二辰  
年三月建立

開 基 成就院 日 意

二 代 寬成院 日 相

看 主 生雲坊

四 代 中興一妙院 日 近

寛文五年京都本山より來る此代過半善宗寺再興佛具世具出來仕候

五 代 本瑞院 日 秀

六 代 要遠院 日 涌

七 代 要覺院 日 隨

看 主 淨仙坊

八 代 永住院 日 榮

九 代 榮成院 日 友

善宗寺末 北郡田名部川内村

法華寺支配下

眞如山 本覺寺

本覺寺元來小庵川内村へ能登屋長右衛門と申者生國能登、此者川内村に久住仕法華信仰の者に而不斷  
法華經讀誦仕居候依之小庵を結居仕仕候俗躰に而人を勸め宗門益此者近郷に相知れ候程法華信者御座  
候 人呼而法華長右衛門と申候由此者能登へ罷登り檀那寺本覺寺へ願候而遠照院日住と申僧を下し開  
基と仕能登國本覺寺之分寺致而則眞如山本覺寺と申候右長右衛門跡斷絶仕唯今女計りに御座候 小庵  
草創萬治三年、寛文十年辰五月本覺寺者寺に罷成候

開 基 遠照院 日 住

- 二 代 大乘院 日 栴
- 三 代 從本院 日 曜
- 四 代 見立院 日 行
- 五 代 隨世院

善宗寺末 北郡田名部佐井村

法華寺支配下

大法山 常信寺

於佐井村越後屋平兵衛と申者越後國より參候而致居住候 此者善宗寺本寺京都本能寺へ罷登り於佐井村一寺建立仕度願申候依之本能寺日顯上人より奥羽南部佐井村大法山常信寺と申寺號補住曼陀羅申請罷下り平兵衛力を以て常信寺建立仕候常信寺と申寺號は元來因幡國鳥取の大法山常信寺に御座候此寺津浪にて寺も檀那も廢し候而寺號は本寺へ上り候則此寺號を越後屋平兵衛申請佐井村建立仕候 開基の僧者秋田蓮華寺より參候右建立寛文十二年

- 開 基 宗泉院 日 遊
- 二 代 本法院 日 久
- 三 代 本賢院 日 遵
- 四 代 本光院 日 瑞
- 五 代 圓光院 日 寛

善宗寺末 北郡田名部大畑村

法華寺支配下

究竟山 本門寺

大畑者諸國廻船之津に而上方者入込居住一宗之者多御座候に付法事滅罪等田名部善宗寺へ相頼候所遠方諸事不自由故右檀那願に而大畑村に小庵結置檀用相勤候様成出家被差置被下度旨大畑村檀中より

善宗寺四代一妙院と申僧之時願出候依之一妙院弟子常伯坊と申所化遣候干時元祿十三<sup>辰</sup>年七月小庵を結則常伯坊本門寺之開基に御座候此常伯坊出生者五戸に御座候二代目慈眼院と申僧者秋田久成寺より參候此時大阪天王寺屋彌右衛門手代大畑御山御用に而罷下り居候彌右衛門一宗故助力心添を以寶永元年秋寺建立仕候此節善宗寺へ寺號願候得者善宗寺私難成事故京都本能寺へ願候則天王寺屋彌右衛門取次を以て本能寺末寺京六波羅に本門寺と申廢寺御座候此廢寺を大畑村に建立仕候而究竟山本門寺と申候

開基 常伯坊

二代 慈眼院

三代 進成院

四代 蓮成院

五代 榮成院

看主 成蓮

支配下

三戸郡三戸裏八日町

三戸法華寺支配下

金峯山 妙光寺

妙光寺慶長年中小庵同然に而寺號も無之其節念信院法入と申僧居慶長十四<sup>酉</sup>年二月病死生國知不申候其後法性院玄唱と申僧何方より參候哉檀那と相談の上看主相勤め寛永十八年六月病死

正保三年秋田より顯壽院日宗と申僧罷越檀那と相談之上に而入院寺教候及大破此僧之働を以再興仕候此時迄何方の末寺と申義無御座候依之日宗檀那と遂相談候而京都妙顯寺へ罷登り相願妙顯寺末寺に罷成候

開基 顯壽院 日宗

二 代 常 住 院 日 有  
 三 代 通 心 院 日 憲  
 四 代 本 性 院 日 悅  
 五 代 法 順 院 日 瑤  
 六 代 惠 了 院 日 到  
 七 代 本 義 院 日 圓  
 八 代 完 涼 院 日 閑

妙光寺末 鹿角郡毛馬内下も町

法華寺支配下

本 光 院

當院開闢之旨趣は往古承應年中當村竝に白根に法華宗數多御座候而檀用は三戸妙光寺へ相頼候處毛馬  
 内より三戸迄道法拾三四里有之臨時之檀用勤方不自由に付秋田比内郡大館法華寺御座候而守札等内々  
 に而申請候是又他國故通用仕不慮沙汰於有之者檀那共之不屈之様に存候故當所山本九市郎先祖久治と  
 申者三戸妙光寺顯壽院日宗之代に願出當院開闢仕候

開 基 日 謂  
 二 代 日 慶  
 三 代 日 賢  
 四 代 日 高  
 五 代 日 瑤  
 六 代 日 應  
 七 代 宗 圓  
 八 代 可 純



右之通拙寺十二代竝末庵支配下延享二年之舊記に基書上仕候最支配下近來之世代之儀者追追吟味書上可仕候以上

天保十五年<sup>辰</sup>二月

京都勅願所 妙滿寺末

法華寺<sup>印</sup>

米内武兵殿  
上山繁記殿

(十九) 妙解院補任狀

補任狀

奥州南部森岡御城下

法華寺 妙解院

今般永上跡色衣紫

紋白令免許候然ル上者

於御國中可爲着用

もの也仍而補任狀如件

弘化二<sup>巳</sup>年十一月

年 預 成就院 日 觀<sup>花</sup>押

本山妙滿寺<sup>印</sup>

二百十三世

日 題<sup>花</sup>押